

看護研究についての説明とご協力のお願い

愛媛労災病院看護部では、愛媛労災病院看護部倫理審査委員会の承認を得て下記研究を実施いたします。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2024年11月20日

当院の整形外科病棟では、大腿骨骨折手術後、創部保護剤を除去して傷を触る可能性がある方には、創部感染のリスク回避のため介護衣（つなぎ服：上下つなぎの衣服でファスナー開閉がロックされ、患者自身では着脱できない衣服）を術後から抜糸まで着用していました。しかし、介護衣着用は身体行動制限であり、最小化する取り組みが必要です。そこで、患者の状態に合った創部保護ができるようにする教育と介護衣着用判断手順を作成し、介護衣（つなぎ服）着用を減少につなげるため、看護研究に取り組むたいと考えました。

1. 研究課題

創部保護目的の予防的な介護衣着用減少にむけて ―教育と手順を用いた効果―

2. 研究期間

2024年11月～2025年2月

3. 対象者

2023年9月～2024年2月までの間に愛媛労災病院で大腿骨骨折の手術を受けられた方

4. 目的

看護師への手術後の創部保護についての教育と当院で作成した介護衣着用判断手順を用いることで、大腿骨骨折術後の創部保護目的で実施していた予防的な介護衣着用の減少につながることを明らかにすることを目的としています。

5. 方法

愛媛労災病院のカルテから2023年9月～2024年2月までの間に大腿骨骨折の手術をうけた事例を診療録から抽出します。収集する項目は、年齢、認知症の有無、せん妄ICDSC（Intensive Care Delirium Screening Checklist）評価、疼痛の程度、鎮痛剤の使用状況、創部を触っていたか、夜間の睡眠状況、創部保護のための病衣の工夫または介護衣（つなぎ服）着用状況、着用期間、創部保護強化などのデータです。

本件は「オプトアウト」すなわち、同意不要であった既存データを用いた研究において、「自分のデータは使わないでほしい」という、患者さんの拒否の機会を確保するためのものです。

研究に情報を提供したくない場合は下記窓口にお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生じることはありません。

<本研究に関する問い合わせの連絡先>

独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院 北7階病棟

研究責任者：長野綾子、研究者：白石智子、手島由紀子、森賀千恵美

〒792-8550 愛媛県新居浜市南小松原町13-27

TEL 0897-33-6191